

# 総長先生から学んだこと

心理学部 講師  
博士（心理学） 武内智弥

1月30日の授業では、授業のやり方を勉強する機会であっただけでなく、キャリア科目の考え方について総長先生よりうかがう機会もあり、まずはその中で印象的であったことについてまとめ、その後に、授業の方法についてまとめたいと思います。

キャリア科目の考え方についてのお話は、物事を達成される際の総長先生の態度と関係が深いように窺えました。総長先生は、目的に合わせて今自分が行うべきは何かを徹底的に突き詰めることをお話ししてくださいました。それは「一般的な授業の方法」とらわれることもなく、教員としての指導したい教えた気持ちから授業を検討・実施することもなく、学生が資格試験に合格するために必要なことのみを行うという徹底的な態度でした。目の前にいる学生たちに何が必要なのかを見極め、それに沿って無駄を排除し、そして、それを実行することだと理解しました。今回の研修では、資格試験に合格するために、という文脈でのお話でしたが、今の学生に何が必要なのかを考え、それが一般的な方法と異なっても、必要なことに沿って授業を組んで実行していくということは、教育に対する基本的な態度のことであることを示してくださったのだと感じています。

今回の研修会の中で、担当の先生のやり方について、総長先生がコメントされていた点についても振り返っておきたいと思います。総長先生が前回の時よりも良くなったと仰っていたのは、その問題のポイントが学生にとって頭に入るように、余計なことに触れない効率的な暗記のためのパターンで授業を進めている、ということでした。具体的には、学生に問題文とその解説をセットで読ませて、読み終わったらその箇所の暗記をさせる時間を取るようにして、問題とその選択肢、そしてそれらの解説を理解・暗記させ、一問終わるごとにその問題全体を暗記させる時間を再びとる、といったパターンでした。このパターンで授業を行うと、教員は準備などでエネルギーを消耗することなく、当日に目の前の学生達の反応をよく見ることにエネルギーを注ぐことができ、学生は暗記に集中するように頭をととも使うことができました。

この過程で仰っていたのは、理解することも重要であるけども、究極的には、理解していなくても暗記していれば正答を選ぶことができるために、特に重要なのは暗記であるということでした。

これらの態度と方法を徹底し、全員合格を達成することを強く意識し続けて参ります。